

兵庫医科大学 研究実施のお知らせ

本学で実施しております以下の研究についてお知らせ致します。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究課題名	小児の好酸球性消化管疾患の臨床像～他疾患による消化器症状との鑑別を含めて [倫理審査受付番号：第 4295 号]
研究責任者氏名	奥田真珠美
研究機関長名	兵庫医科大学長 鈴木 敬一郎
研究期間	2023 年 1 月 24 日 ～ 2027 年 3 月 31 日
研究の対象	以下に該当する患者さんが研究対象となります。 好酸球性消化管疾患と診断された方 腹痛や下痢などで小児消化器外来を受診された方 診療科名等： 小児科 受診日：西暦 2019 年 4 月 1 日～ 2024 年 10 月 30 日
研究に用いる 試料・情報の種類	試料等 カルテ情報 アンケート その他（ ） 取得の方法： 診療の過程で取得 その他（ ）
研究目的・意義	好酸球性消化管疾患は、消化管への好酸球浸潤により機能不全を起こすアレルギー性炎症性疾患で、内視鏡検査で診断することができます。以前は稀な疾患とされていましたが、近年、患者数は増加しており、嘔吐、腹痛、下痢などの消化器症状が長引く場合に、疑う必要があります。これまでの報告では、アレルギー疾患がある患者様に多いということが知られていますが、アレルギー疾患のない患者様でも発症することがあり、どのような患者様に発症しやすいかということはよく分かっていません。好酸球性消化管疾患を疑うべき臨床像の検討は、小児消化器疾患の分野において重要な課題です。本研究では、(1)過敏性腸症候群や炎症性腸疾患など小児の消化器疾患と好酸球性消化管疾患を鑑別するための臨床像の違い (2)併存疾患(アレルギー疾患や神経発達症など)を含めた発症リスクの検討を、後方視的に行います。 この研究を行うことで、どのような方に、好酸球性消化管疾患を疑って内視鏡検査を積極的に行うべきかが明らかになる可能性があります。また、好酸球性消化管疾患を見落とすことが少なくなる可能性があります。

研究の方法	兵庫医科大学小児科 小児消化器外来を受診された方が対象となります。 年齢、性別、成長・発達歴、家族歴、アレルギー疾患歴、詳しい消化器症状、血液検査、便・尿検査、画像検査（単純レントゲン、腹部エコー、腹部 CT、消化管内視鏡検査）などの情報と確定（暫定）疾患名を後ろ向きに調査します。好酸球性消化管疾患と診断された方では、臨床像を詳しく分析し、好酸球性消化管疾患とそれ以外の消化管疾患について、鑑別ができる臨床像を研究します。
個人情報の取扱い	収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。
本研究に関する連絡先	診療科名等：小児科 担当者氏名：奥田 真珠美 [電話]（平日 9～17 時）0798 - 45 - 6351